

2017 年度第30 回日本リスク研究学会年次大会(滋賀大会)  
企画セッション『リスクマネジメントの実務とリスクマネジャの10年』

# リスクマネジャの10年を振り返る (その成果と課題)

滋賀大学彦根キャンパス

2017年10月28日(土)

宮崎隆介／宇野健一

日本リスクマネジャネットワーク(JRMN)

# 1. リスクマネージャのゆりかご

**2004年10月**：大阪大学において「環境リスク管理のための人材養成」プログラム（文部科学省科学技術振興調整費・新興分野人材養成プログラム採択）が開講（～2009年3月まで5年間。採択期間経過後、2011年3月までの2年間大阪大学独自の大学院高度副プログラム「環境リスクマネージャ養成プログラム」として継続し、都合7年間リスクマネージャ養成が行われた。

その特徴は下記のとおりである。

## (1) 基礎的且つ多面的な教育

将来のリスクに立ち向かい、リスクをコントロールできるリスクマネージャ人材を目指す人すべてに門戸を開いた大学院修士コース。（ただし、社会人向けに特別に受講生枠が設けられた）リスクに関する専門知識や業務についての経験者への資格認定に必要なノウハウ的教育ではない。

## (2) 環境の分野をコアにしたリスクマネジャ

環境リスクは社会においても企業においても共通の大きなリスクである。環境問題を通して、そのリスクを正しく把握しマネジメントできる能力を磨き、応用、展開力を身に付ける。

## (3) ネットワーク

社会人受講生は学歴、職歴、年齢に大きな幅があるメンバー構成。

自己の体験を発表したり、失敗事例などをフランクに話し合う。

**2006年3月**： 日本リスク研究学会で「リスクマネジャ養成プログラム認定制度」発足。同時に大阪大学大学院工学研究科が開講した「環境リスク管理のための人材養成プログラム」を第1号に認定。

## 参考) カリキュラム構成

[必須] 1科目:2単位 × 6科目 = 12単位

①グローバル・リスク政策論

②リスクマネジメント・システム

### リスクマネジメントとリスクコミュニケーション

⑨技術リスク  
意思決定論

⑩リスク対応  
実践論

⑪リスクコミュニ  
ケーション論

⑫リスク便益  
分析

[選択必須] 1 演習: 8単位 × 1演習 = 8単位

### 実践的演習群

演習(組織リスクマネジメント)

演習(リスクコミュニケーション)

研修

[選択]1科目:2単位 × 5科目 = 10単位

## リスクアナリシスあるいはリスクアセスメント

### 環境曝露リスク評価

③大気曝露リスク評価

④土壌浄化の分析と対策

⑬生態リスク評価

### 化学物質のリスク評価

⑤化学物質の環境リスク評価

⑥健康リスク評価

### エンジニアリング・リスク評価

⑦プラントオペレーション・リスク論

⑧確率論的リスク評価

### リスクの法・経済分析

⑭環境リスクと法制度

⑮経済・経営からのリスク分析

プログラム修了単位 : 11科目、1演習 計 30単位

**2006年3月**：リスクマネジャ第1期生3名（社会人2名、大学院生1名）誕生。

以後、半年ごとに第11期まで順次リスクマネジャが誕生する。

プログラム修了者 計105名。（内、リスクマネジャ登録者92名）

**2008年7月** 日本リスクマネジャネットワーク(JRMN)発足

学んだ知識を生かし、社会を取り巻く状況を十分に把握して、これからは環境問題以外にも通用する幅広い力をつけ、〈現場の少し未来の課題に適切に対応・解決する〉能力を身につけ、真のリスクマネジャとして社会で活躍、認知されるようになりたいと願い、日本リスクマネジャネットワーク(JRMN)を結成した。

**2016年3月**：第1期生、登録期間(10年)満了。以後、順次登録期間満了に伴い再登録手続き。

## 2. **社会に向けた発信** を目指して(社)日本リスクマネージャネットワークを設立

【社会の要請に応じてリスクマネジメントの普及に取り組み、リスク事象に関する調査研究を行うとともにリスクマネージャとしての資質を磨き、社会の安全、安心の向上に資する(定款第3条)】

- ① 市民向けに講演会、研修会などを開き、リスク問題に対するものの見方を伝える
- ② 環境リスクマネジメントに関する企業等の研修講師を務めたり、コンサルティングを行う
- ③ 環境リスクマネジメントに関する独自の調査研究や受託研究を行う
- ④ 研修会の開催、学会発表等を通じて継続的教育(CPD)に努める

- ・年齢：現時点で30代後半～70代後半。会員34名（2017年10月現在）
- ・性別： 男29名、女5名。
- ・所在： 京阪神在住が中心。東京など遠隔地在住者若干名。
- ・職業： 会社勤めが大半であったが、現在は退職して在職中の経験、資格等をもとに個人事務所を開いているものが少なからずいる。
- ・業種： 建設・製造業が19名、サービスその他流通小売り関連、コンサルティング、公務員等が15名である。
- ・経歴/資格： 環境関連の資格（ISO審査員や環境カウンセラーなど）保有者や、環境関連部課の経験者が17名。博士号取得3名、技術士3名、弁護士1名。

（以上、人数は重複表示）

### 3. リスクマネージャとしての活動

1) 日本リスク研究学会 (SRAJ) 年次大会での企画セッションに参加して発表

① **JRMN発足以前**: 第20回 (2007年11月、徳島大学) 大会において公開シンポジウム「リスクマネージャの産業界への貢献とリスク教育への期待」に参加。リスクマネージャ 6名が発表。

② **JRMN発足以後**: 第21回 (2008年11月、関西大学) 大会において企画セッション「社会人リスクマネージャの役割と視点」、第22回 (2009年11月、早稲田大学) 大会において 企画セッション「社団法人日本リスクマネージャネットワークの現況と今後の方向」をJRMN独自に企画し、実施。

③第25回(2012年11月、滋賀大学 彦根)大会において企画セッション「リスクマネージャ委員会主催:オープンディスカッション～リスクマネージャの社会的役割と学会の支援」で2名発表。

④第26回(2013年 中央大学 東京))大会において企画セッション「リスクマネジメントの実務」をリスクマネージャ委員会、JRMN共催で実施。以後毎年継続して実施。JRMNより1～2名発表。

## 2) 講師派遣活動

- \* 企業内研修 講師派遣  
リスクに関する一般教育 2008年 6月 東京／  
ISO基礎研修 2009年12月 大阪
- \* NPO法人主催シニアセミナー 講師派遣(テーマ:企業活動と環境リスク  
2008年 6月 東京)
- \* 企業団体—REACH解説研修 講師派遣(2008年7月 京都)

- \* エコ検定受験対策講座  
(尼崎商工会議所)  
企画及び講師派遣(2008年～  
2011年)



- \* JRMN会員の所属企業内研修
- \* 会員のつてによる子供向けエコ講座

### 3) セミナー、講座等の企画、実施

#### ① 知の市場共催講座「環境基礎論」の開講

\* 2010年10月開講し、以後現在まで継続して実施。

・2016年度まで7回の実績：受講者計77名（修了者45名）。

現在8年目の講座を実施中（受講者12名）

科目構成	No.	講義名
地球と環境	1	環境問題の歴史
	2	宇宙船地球号(1)
	3	宇宙船地球号(2)
公害と環境	4	水質汚濁問題
	5	土壌汚染問題
	6	大気汚染問題
	7	廃棄物処理問題
地球温暖化	8	地球温暖化(1)
	9	地球温暖化(2)
化学物質と食	10	化学物質のリスク管理
	11	食の安全・安心
社会の動き	12	最新の環境技術・環境ビジネスの紹介
	13	環境法の動き
	14	企業の社会的責任(CSR)
まとめ	15	持続可能な社会(循環型社会／低炭素社会)を目指して

**【参考】**  
「環境基礎論」  
科目構成  
(全15回  
毎週1回  
18:15～20:15)

現在までに26名の  
会員が講師として参加

②おおさかATCグリーンエコプラザビジネス交流会で「リスク社会への対応を考える」と題してセミナーを2013年10月に開催。以後、毎年1回、同時期にリスクマネジメントセミナーとして継続実施。

今年度(2017年)は、日本リスク研究学会から関澤氏(元会長)を招いて、豊洲問題と食の安全・安心に係わるリスクコミュニケーションをテーマに講演を実施した。



### ③自己啓発活動 活動例(1)



岸本充生氏(産業技術  
総合研究所(当時))に  
よる「安全のためのリ  
スク評価入門」公開  
セミナーを企画、実施。  
(2014年3月)

### 活動例(2)

定例会(2か月に1回程度の頻度)で模擬リスクカフェや外部講師を招いた講演会を実施

# 4) 学生向けリスク教育の取り組み

「サイエンスフェアin兵庫」参加(高校生対象。第8回、2016年1月。神戸市で開催)に参加。以後継続して参加。



#### 4. リスクマネージャとして今までに出来たこと

【社会の要請に応じてリスクマネジメントの普及に取り組み、リスク事象に関する調査研究を行うとともにリスクマネージャとしての資質を磨き、社会の安全、安心の向上に資する(定款第3条)】

- ① 市民向けに講演会、研修会などを開き、リスク問題に対するものの見方を伝える
- ② 環境リスクマネジメントに関する企業等の研修講師を務めたり、コンサルティングを行う
- ③ 環境リスクマネジメントに関する独自の調査研究や受託研究を行う
- ④ 研修会の開催、学会発表等を通じて継続的教育(CPD)に努める

注: 青字部分が今までに出来たと考えていることを示す。

## 5. 今後の課題

1) リスクマネージャとして必要な条件(リスクマネージャ像) (昔も今も、そしてこれからも)

① 自らの力でリスクを調査し確認し、自己責任において分析、評価する能力

② 技術、分析能力に優れていることに加えて経営トップとうまくやっていく能力

③ 向学心に燃え、前向きで継続性のあること

簡単な条件ではないが、志としては持ち続けている。特に強く求められるのは①のアウトプットとその社会的発信である。

そしてその社会的発信の形とは？ (それを探っていくことが今後の大きな課題である。)

【参考】〈リスク専門家の要件〉 日本リスク研究学会誌:「リスク」  
で科学と社会をつなぐ(神田玲子、2014年No. 1)より

- 1) 社会からのニーズをキャッチできること(ニーズが示されていない場合には、引き出す対話力が必要)
- 2) さまざまなニーズに応えられること(必要とされているタイミングで発信するには、ある程度の柔軟さが必要)
- 3) 自分と他者それぞれの専門性を尊重すること(専門家は、何かの専門家であって、すべての専門家ではないことに留意。そして自らの専門分野に関しては安易にぶれない骨太さも必要)
- 4) 自らの主義・主張と区別して科学的情報を発信すること(社会は科学的情報を欲しているが、専門家の意見も聞きたいと思っているとは限らない)

## 2) 会員拡大

日本リスク研究学会によるRM資格認定に係わらず、リスクマネジャの人間像に共感し、一緒に活動してもらえる人材をJRMN独自に開拓することが大事。

【 社団法人として、RMないし、それに準じた資格に限定しているため、NPO法人のように独自に入会者を増やすことを想定してこなかった。

現在まで学会認定RMに準じた人材として、大阪大学独自の大学院高度副プログラム「環境リスクマネジャ養成プログラム」（2年間実施）修了者（3名）、阪大プログラム事務局のスタッフ（1名）、知の市場「環境基礎論」講座修了者（弁護士）（1名）を入会者に迎えている。】

- ①知の市場「環境基礎論」に倣って、JRMN会員による「リスクマネジメント入門」のような連続講義
- ②学会の研究者を講師とするリスク関連セミナー

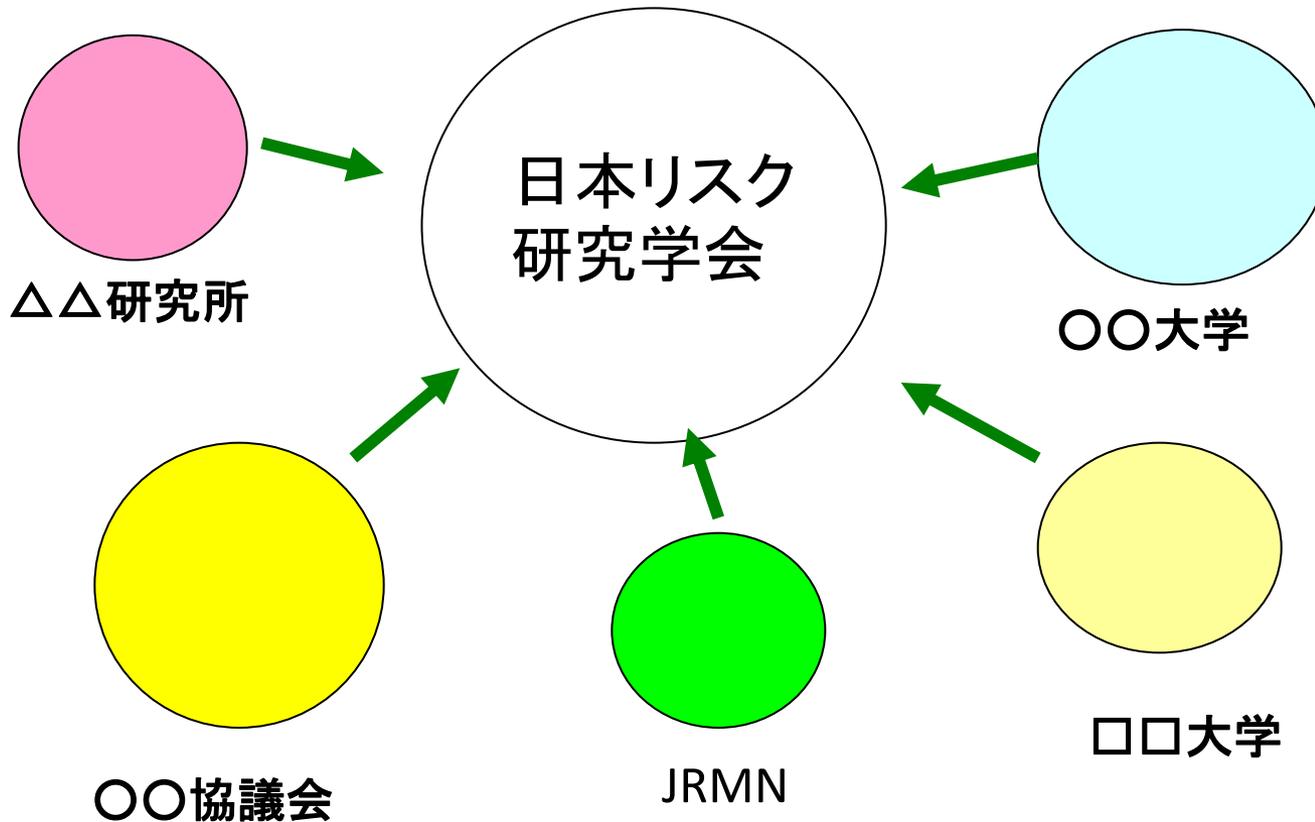
などを実施し、その受講者をRMに準じる人材として会に迎えていくことが考えられる。

### 3) 日本リスク研究学会への期待

リスクマネージャ養成という視点を持ち続ける日本リスク研究学会の研究会員とのオープンな交流を深めていくこと。

違った観点から我々も一緒になって物事を見、情報交換をする場をもちたい。  
さらに今一度〈リスクマネージャ像〉の共有を。

例えば リスクマネージャの立場になって同じテーマを議論する



ご清聴、ありがとうございました